

## 都市再生研究会特別寄稿

## 大阪長屋 - もうひとつの「都市再生」への視点 -

弘本由香里

大阪ガスエネルギー・文化研究所 客員研究員

## 民の力の象徴としての長屋

幕末の大坂のまちを鳥瞰した風景画、五雲亭貞秀筆「大坂名所一覧」を見ると、画面一面に碁盤目状の市街地が広がり、町家の瓦屋根が碁盤の目を埋めるように規則正しく並んでいる様に圧倒される。表通りに面して、端正な表情を持つ、長屋建ての町家としての借家がずらりと並び、路地を入ると小さな裏長屋が軒を連ねる。そういうまちの構造が、生活・産業・文化の受け皿となり、近世大阪の活力を支えていたのである。

近世から近代へ、日本社会が大きな構造転換を迎えた時、東京では武家地を基盤に、官の力で近代的都市づくりが進められていったのに対し、大阪では町人地を基盤に、民の力で近代的都市づくりが模索されていった。しかも、その町人地の大半が、近世の繁栄を支えてきた長屋で構成されていたのである。



近世大坂の町人たちによって形成された質量ともに豊かな町家・長屋の歴史的系譜が、近代以降の大坂の都心から郊外に及ぶ都市住宅としての

長屋の豊かな発展につながっており、一般的に長屋に対して抱かれがちな画一的な貧しいイメージとは一線を画し、大阪における長屋の驚くべき多様性のバックボーンになっている。

こうした大阪の都市史をひもとくと、官の側・支配の側から文脈ではなく、民の側・そこに住み・暮らす主体の側から、まちづくりのシステムを組みなおしていく物語として、都市再生を捉える必然性が見えてくる。

今、大阪市内の長屋再生が話題を集めている。大阪長屋の歴史特性と再生ムーブメントを、もうひとつの都市再生という視点で見つめてみたい。

## ソーシャル・キャピタルの形成へ

長屋再生の代表例として注目を集めている都心部、空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト(からほり倶楽部)の活動の一端を紹介しながら、その意味を読み解いてみよう。

大阪城天守閣から約2km南に下ったあたり、上町筋から谷町筋をまたいで松屋町筋まで、上町台地をダイナミックに東西に貫く商店街が通称「空堀商店街」である。商店街の両側に戦

災を免れた長屋と路地のまちが一面に広がり、坂道や石段・石畳とともに、懐かしい暮らしの風景を留めている。

こうしたまちの魅力に引かれて、アーティストやデザイナーや建築士など、クリエイティブな人材が、このまちにアトリエやオフィスや住まいを構えるケースが増えている。そんな状況の中で、長屋のまちの魅力が再認識し、老朽長屋の再生・活用を目指す、からほり倶楽部が誕生した(2001年4月発足)。そこで実践されている長屋のまちの価値の発掘と継承や新旧文化の融合の手法の中に、筆者はもうひとつの都市再生への鍵を見出すことができている。



ひとつは、ローコスト化をきっかけにしながら、居住者が自ら内装の一部に手をかけていく「セルフビルド」。このプロセスが介在することによって、建

物やまちとのダイレクトで豊かな応答関係・愛着が生まれ、建物やまちの持続性や価値を飛躍的に伸ばしていくことにつながっている。二つ目は、住宅だけでなく、商店やアトリエやオフィスなど、さまざまな機能が混在するまちの魅力が人々を引きつけていること。それらの機能混合が「ソーシャル・ミックス」を実現し、新たな文化を生み出す創造力の源になっている。多様な世代、多様な階層の居住者を受け止めるまちの包容力が開く可能性である。そして、三つ目に、こうした取り組みが、新たな人生やビジネスの開拓にチャレンジをする人たちを呼び寄せ、支え育てる、「インキュベーション」の場になっているという事実である。この三種の機能がまちに組み込まれることによって、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)、いわば地域力が形成されていく。

長屋を入り口にもうひとつの都市再生の鍵を探ることは、決して建物としての長屋を単に再生する意味に終わるものではない。長屋が構成するまちの構造が担保していた、ソーシャル・キャピタルを形成する機能こそ、再生の目的となるべきものである。建物の姿・形は変わったとしても、その機能の核心部分をまちの中に構造的に組み込んでいくことが、都市再生のこれからを開く鍵であると言い換えてもいいだろう。

自分流の表現をかなえ持続的な愛着につながる「セルフビルド」。さまざまな価値観・階層を受けとめて活力とモラルを育む「ソーシャル・ミックス」。夢を追う力・実現する力を育む「インキュベーション」。それらが、「まちとのつながり」というストーリーの中で再構築されていくこと。生活・文化・産業一体で、一定の流動性を受け止めながらソーシャル・キャピタルを育む、持続的な都市再生のモデルを創造していく必要性がはっきりと浮かび上がってくるのである。

(2004/3)

財団の都市再生研究会・大阪部会では、「空堀地区」をテーマに、都市再生の新たなモデル提言に向けて調査研究を行っています。(企画調整部 岩井 惇)